

田上多佳子事務主任を送る

岩 村 秀（化学教室）

田上多佳子さんは、昭和28年2月化学教室主任付きの職員として理学部にお入りになり、同年4月化学科事務室に移られ、以来38年にわたる永い歲月、化学教室の事務の柱として勤務して来られました。その間、昭和34年9月には文部事務官に任官され、53年6月には化学科事務主任に昇任しておいでです。一口に38年と言いますが、当時の教室主任は水島三一郎先生であったとのことですから、如何に永い間教室に御勤務されたか実感されます。私事で恐縮ですが、化学科に進学してまいりましたら、ほんの一人か二人で組織されていた事務室に星野（旧姓）さんとお呼びする清楚可憐な方がおいでで、私共学生の進学に関する教務を一手に担任されていたのが思い出されます。

田上さんの温厚、誠実且つ毅然としたお人柄、責任感あふれる正確なお仕事振りは、理学部の皆様をご承知のとおりであります。事務主任になられてからは、調和の取れた事務室運営にも腕を振るわれました。特に教室主任との緊密な連絡を心掛け、教官と事務技術職員との橋渡しを配慮され、ひいては教室全体の整然とした雰囲気作りに少なからぬ貢献をされました。

また、化学教室の明治大正の会のお世話をされたり、当時の先生方、卒業生が訪ねてこられるの

に対応されることを通して、昭和のみならず明治大正の卒業生も多数ご存知です。これら諸先生先輩のお人柄エピソードを含めて、文字どおり、化学教室の歴史事情に通じる生き字引であると言っても過言ではありません。

永年、教室に籍を置かれた方々から信頼され、親しまただけでなく、卒業生が化学教室を訪ねる際、古巣のより所の一つは事務室であると言われて来ました。昨年あたりから、外の何人もの方々から田上さんの定年に関する問い合わせをいただき、教室も掛け替えのない事務主任の御退職をそろそろ覚悟しなければいけないのだと感じさせられておりました。

昭和48年頃より教室職員中心に、俳句の「とちの実会」を組織され、中心的に活躍されました。俳画もたしなまれると伺いました。ただしここ何年かは、化学教室事務のことで頭がいっぱいで、あまり余裕がなかったと言っておいでです。

これからは、ごゆっくり御家庭のお仕事、御趣味にお時間をお使いいただけると存じます。また、今度は立場を代えて、化学教室を懐かしく思い出して訪ねておいでの田上さんを、私共がお迎えすることとなります。御遠慮無くいつまでも元気なお顔をお出し下さい。